



2019年3月18日

## GAFAなど大手IT企業が金融安定にもたらすリスクとは

公益財団法人 国際通貨研究所  
 経済調査部長兼開発経済調査部長 矢口 満

米国のGAFA<sup>1</sup>や中国のBAT<sup>2</sup>といった、いわゆるデジタル・プラットフォームを提供する大手IT企業（以下、ビッグテック）の台頭は、既存の金融機関にとっての潜在的な脅威として1年ほど前から内外で意識されてきた<sup>3</sup>。しばしば指摘されるように、ビッグテックには、①広範な顧客データベース、②強固な財務基盤と高い資金力、③抜群のブランド認知度、などの競争上の優位性があり、顧客の特性に合わせた金融商品・サービスを自らのプラットフォーム上で効率的に提供することが可能である<sup>4</sup>。

ここで注目されるのは、海外の金融規制当局において、ビッグテックの台頭が金融の安定を脅かすリスク要因としても議論され始めたことである。これは、我が国ではまださほど意識されていないが、重要な論点を含むことから、以下で簡単に紹介したい。

ビッグテックを金融安定にとってのリスク要因とみなす議論は、次の2点に集約できる。第1に、既存の金融機関によるクラウドサービスの利用が広がっており、そのため金融システム全体で見ると、同サービスの主たる提供者であるビッグテック<sup>5</sup>にリスクが集中する構図となっている点である。個別の金融機関は、勘定系システムなど基幹業務部分も含めてクラウドサービスを利用することで、コスト削減やセキュリティ高度化、オペレーショナルリスク低減を進めている。ただし、サービス提供者が何らかの事情（サイバー事故、経営破綻、採算悪化）で業務を中断せざるを得なくなった場合、それが金融システムに及ぼすダメージは計り知れない。にもかかわらず、クラウドサービス提供者のようなサードパーティ（第三者業者）の外部委託業者は、今のところ、どの国においても金融監督の直接的な対象となっていない。

<sup>1</sup> Google, Amazon, Facebook, Apple の4社。

<sup>2</sup> Baidu (百度), Alibaba, Tencent の3社。

<sup>3</sup> 例えば、2018年1月25日付けのロイター通信記事「コラム：銀行のデジタル革命、フィンテックを超える新たな脅威」(<https://jp.reuters.com/article/column-banks-digital-idJPKBN1FE0DY>)を参照。

<sup>4</sup> ビッグテックは各社とも決済サービスを提供しているほか、例えばAmazonは自社のプラットフォームに出店する販売業者向けに貸出を行っている。また、Alibabaは傘下に銀行やノンバンクを有し、自社のプラットフォーム上で中小企業や個人向けに貸出を行っている。

<sup>5</sup> 米 Synergy Research Group によると、クラウドサービス市場のシェア首位はAmazon（約35%）であり、2位以下にはMicrosoft（約15%）、Google（約7%）、IBM（約7%）、Alibaba（約4%）が続く (<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/1902/13/news078.html>)。

こうした点が海外では問題視され始めており、各国の金融規制当局を束ねる役割を担う金融安定理事会 (FSB) は、今年 2 月に公表した報告書<sup>6</sup>で本件を正面から取り上げた。また、昨年 12 月のバーゼル銀行監督委員会 (BCBS) の報告書<sup>7</sup>や今年 2 月の欧州銀行監督機構 (EBA) の報告書<sup>8</sup>でも、サードパーティへの業務集中に伴うリスクを明示的に指摘している。これに対して我が国では、金融機関の外部委託管理の重要性は認識されているものの<sup>9</sup>、業務集中リスクまで指摘されることは少ない。

ビッグテックを金融安定のリスク要因とみなす第 2 の論点は、多くの金融機関がビッグテックに依存する結果、各金融機関の独自性が失われ、顧客ロイヤルティの喪失やより厚い利鞘確保へのプレッシャーにつながるおそれがあることである。ビッグテックは複数の金融機関に対して、①上述のクラウドサービス、②金融商品・サービスの販路となるデジタル・プラットフォーム、などを基本的に同一条件で提供している。これは、特に小規模な金融機関にとり、自力では難しかったセキュリティ高度化やオペレーショナルリスク低減を実現できるというメリットがある<sup>10</sup>。このため多くの金融機関が基幹業務や販路をビッグテックに依存しつつあるが、冒頭で述べたように、そのビッグテック自体が金融商品・サービスの提供を部分的ながら行っており、既存の金融機関と競合する側面を持つ。

こうした複雑な状況について、フランス中央銀行のボー第一副総裁は今年 1 月末、「既存の金融機関がホテルや小売業者のように戦略上の独立性を失い、コモディティ化していく」と刺激的な表現で警告し、それが顧客離れに伴う資金調達環境の悪化や、利鞘確保のための与信基準緩和につながる可能性を指摘した<sup>11</sup>。

以上の 2 つの論点に共通するのは、ビッグテックが金融市場の効率性を大幅に改善しており、それが故に副作用の生じるおそれもあることである。これは、技術革新に伴う利便性向上と新たなリスクとのバランスをいかにとるのか、という古くて新しい問題ともいえる。今後の議論の深まりを注視したい。

以 上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

<sup>6</sup> FSB (2019), “FinTech and market structure in financial services: Market developments and potential financial stability implications,” Feb. 14, pp.17-20

<sup>7</sup> BCBS (2018), “Cyber-resilience: Range of practices,” Dec. 14, p.6 and pp.30-34

<sup>8</sup> EBA (2019), “Final Report on EBA Guidelines on outsourcing arrangements,” Feb. 25

<sup>9</sup> 金融庁 (2019) 「金融機関の I T ガバナンスに関する対話のための論点・プラクティスの整理 (案)」、3 月 14 日、第 8 頁

<sup>10</sup> FSB (2019), p.17

<sup>11</sup> Banque de France (2019), “Financial regulation and supervision issues raised by the impact of Tech firms on financial services,” Speech by Denis Beau – First Deputy Governor, Paris, Jan. 29, pp.6-7